

## 陸奥国分寺跡第 33 次調査の成果について

## 1. 調査要項

調査地点 仙台市若林区木ノ下二丁目  
調査原因 史跡整備のための範囲確認調査

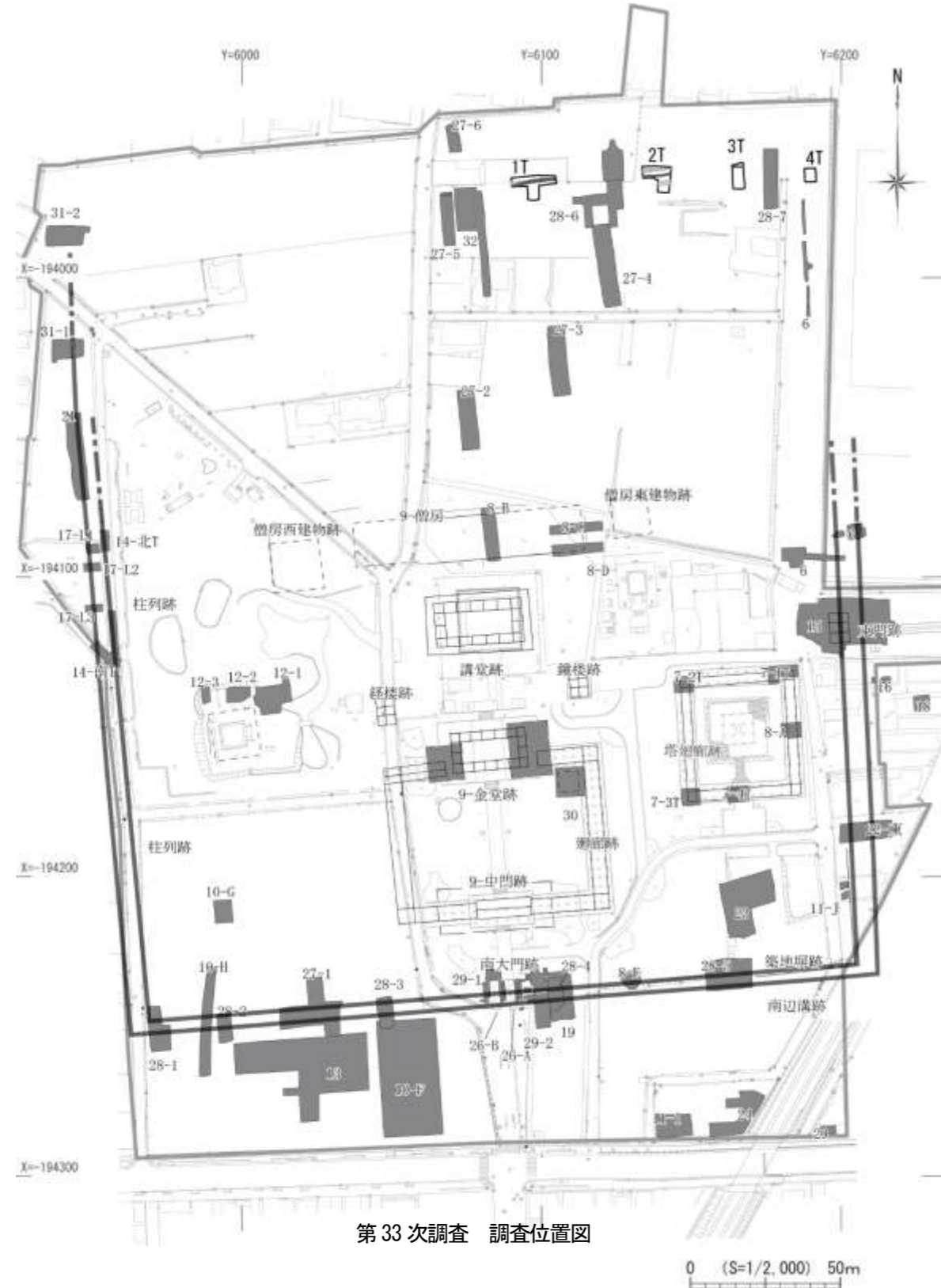
調査期間 令和 5 年 9 月 21 日～12 月 5 日  
調査面積 約 169 m<sup>2</sup> (1 区: 65 m<sup>2</sup>、2 区: 56 m<sup>2</sup>、  
3 区: 32 m<sup>2</sup>、4 区: 16 m<sup>2</sup>)

## 2. 調査概要

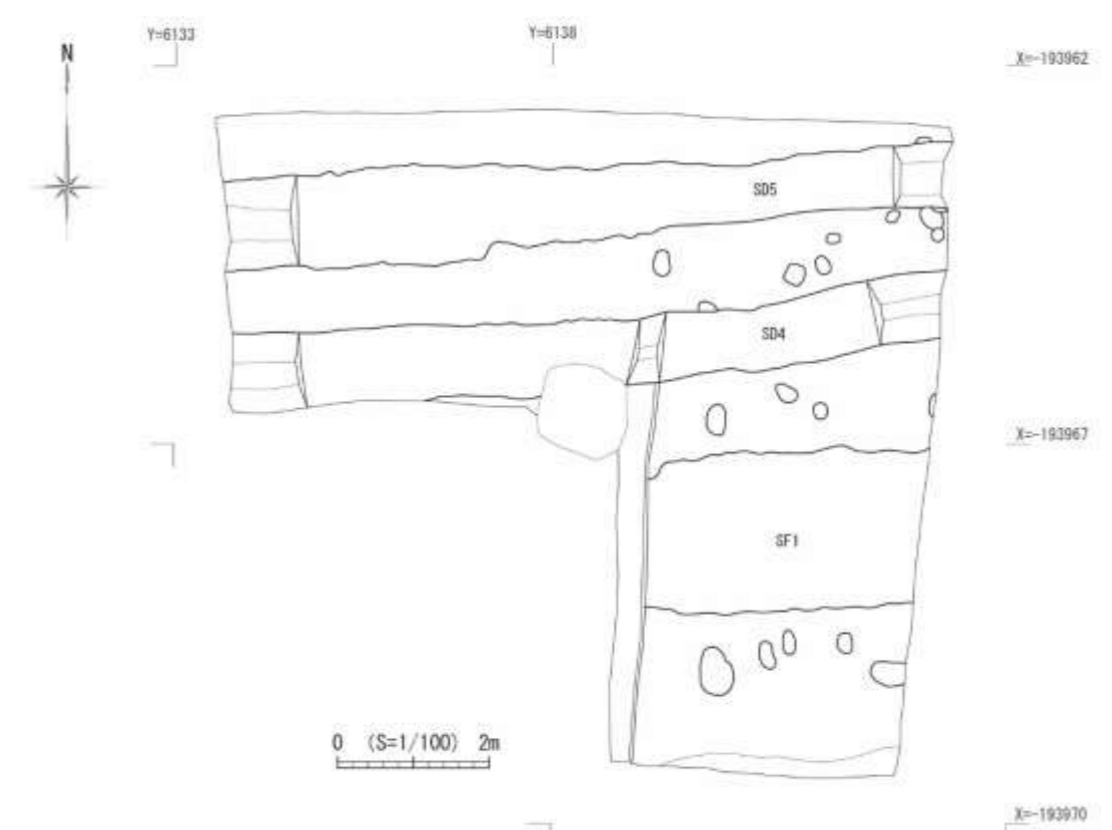
調査地点は遺跡北部に位置する。未だ確定されていない寺地北辺の区画施設の検出を目的として遺跡北東部に調査区を 4 か所設定した。

調査成果として、陸奥国分寺跡の区画施設の可能性がある溝跡(溝跡 1・2)と築地塀の掘込地業跡(SF1)を検出した。溝跡 1 は東西 100m 以上続いていることが確認されたが、その方向は一定ではなく蛇行しており、SF1 掘込地業跡の推定延長と重複するため、築地塀と同時に存在していた可能性は低いと考えられる。

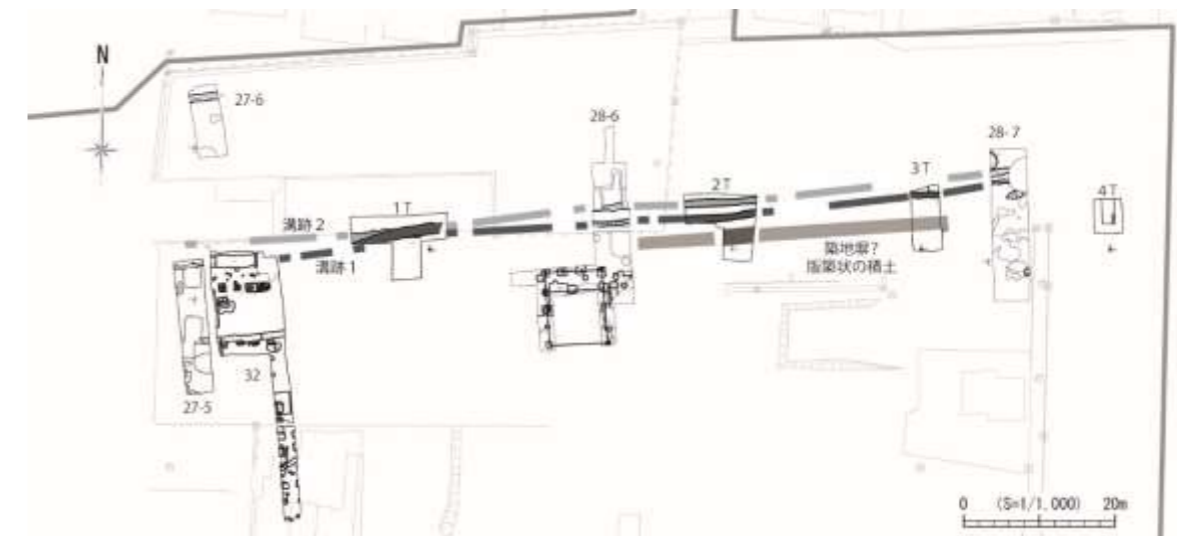
溝跡 2 と SF1 掘込地業跡と傾きが近く平行していると考えられることから、寺院の北辺区画施設の可能性がある。2T では掘込地業跡の北端から溝跡 2 (SD5) の中心までの距離は約 3.4m 離れており、南辺区画溝と溝跡 2 (SD5) との距離はそれぞれ約 274m で、また、南辺築地塀と掘込地業跡 (SF1) 中心までの距離は約 267m である。



第 33 次調査 調査位置図



第 33 次調査 2T 平面図



遺跡北東部の遺構配置図